

1946年8月26日 第3種郵便物認可
2018年3月1日発行（毎月1回1日発行）

SEKAI

岩波書店

2018

March

no.905

世界3

特集
1

辺野古新基地はつくれない

山城博治 北上田 毅 野中大樹

特集
2

中東・新たな危機

栗田禎子 長沢栄治 黒木英充 白杵 陽
高橋和夫 内藤正典 小田切 拓

翻訳という創造空間 柴田元幸 野崎 歓 松永美穂 和田忠彦 ほか

新連載 パチンコ哀歌 古川美穂



世界

世界の潮
日韓合意の再検証——「慰安婦問題」の「解決」とは
南北対話から朝鮮半島非核化への道すじ
「犯行時少年の死刑執行」が投げかけるもの
日本の失われた品格と品質——相次ぐ企業不祥事の背景

川上詩朗
木宮正史
後藤弘子
赤木昭夫

33 29 25 20

特集1

辺野古新基地はつくれない

辺野古新基地建設はいざれ頓挫する——工事の現状と問題点

北上田 毅
(沖縄平和市民連絡会)

私たちの勝利は揺るがない——基地建設は窮地に追い込まれている
山城博治

野中大樹
(ルボライター)

新基地建設と人々(上)——名護市長選挙に蠢く「基地マフィア」

古川美穂
(フリーライター)

パチンコ哀歌^{エレジー} 第1回——産業としての黄昏

小林美希
(フリージャーナリスト)

職業としての保育園(下)——株式会社立保育園

阪田論文への応答
「平和の党」の苦悩

内田雅敏
(弁護士)

自衛権の根拠は何に求めうるか——改憲に立憲主義の「回復」を期待でさるか

斜陽の公明党が力ぎを握る「安倍改憲」——中野潤
(ジャーナリスト)

栗田禎子
(千葉大学) × 長沢栄治
(東京大学) ×

特集2 中東・新たなる危機

中東の地殻変動をどう見るか
栗田禎子(千葉大学) × 長沢栄治(東京大学) ×

黒木英充(東京外国语大学) × 高橋和夫(放送大学) × 白杵陽(日本女子大学)
主権国家を越えて

絶対的統治とイスラム的公正——トルコの針路を読み解く

内藤正典
(同志社大学)

「占領」とは何か
「エルサレム」を乞う人々——彷彿える城郭都市

小田切拓
(ジャーナリスト)

ブーチン再選とユーラシア国家の命運
西谷公明(国際経済研究所)

サブサハラ・アフリカの成長可能性と課題
白戸圭一(三井物産戦略研究所)

新語解題 第1回——共用品
星川安之(共用品推進機構専務理事)

翻訳という創造空間
柴田元幸(東京大学名誉教授) × 野崎歓(東京大学) ×

シンポジウム
松永美穂(早稲田大学) × 和田忠彦(東京外国语大学名誉教授) 司会=山口裕之(東京外国语大学)

沈黙を聞くということ——インドと沖縄・ウルワシ・ブタリア(スパンCEO) × 小野正嗣(小説家)

旧ユーゴスラビア戦犯法廷が遺したもの——24年の「正義と分断」——長有紀枝(立教大学)

宋神道の人生譚
——戦場と「慰安所」の極限を生き抜いた在日女性

川田文子(ジャーナリスト)

追悼
波紋を呼んだ最後の判決

新連載 新語解題

《第一回》

きょう・よう・ひん【共用品】

①他の人と共同で利用する物品。
②障害の有無や身体特性に関わりなく、誰もが利用しやすい製品。

みんなで使える、使いやすいを願つて

星川 安之

共用品という言葉のもとが生まれたのは一九九一年四月六日、日本点字図書館（日点）の集会室である。第一回の会合には、職種、年齢などが異なるメンバー二〇名が、年齢の高低、障害の有無などに関わりなく共に使える製品やサービスを世の中に広げるために集まつた。

呼びかけ人は三名。工業デザイナーの鴨志田厚子は、男性中心でつくられる多くの製品に疑問を持ち、子供、女性、高齢者そして障害者を考慮したデザインにいつか取り組もうと考えていた。花島弘は日点で、盲人用具を日本に広めていた。星川は玩具メーカーで、障害の有無にかかわらず共に遊べる玩具を業界全体に普及させる仕事をしていた。

考案、モニター品をくり返し作製した。

課題は、この案をどこに提出すればよいかだった。通商産業省（当時）の医療・福祉機器産業室室長でE&Cメンバーでもある後藤芳一の「日本工業規格（JIS）」は、利用者と製造者の合意があり、かつ証明できるエビデンスがあれば国に対しても提案できる」という言葉がきっかけとなり、JIS作成委員会が設置された。こうして、カード班の永井武志と木塚泰弘が委員となり、一九九六年に「JIS X 6310 ブリペイドカード一般通則」が発行されるに至った。

調査では、シャンプーとリンスのように、同じ形の容器で中身が異なるものの識別ができず不便という回答も多くあつた。企業向けに報告会を開催すると、参加した花王の青木誠から、「検討を重ね、容器の側面と上部にギザギザを付けることになった。実用新案を取得したが、無償で公開するので使っていたい」と提案が出された。こうして一九九二年に容器にギザギザの付いたシャンプーが発売され、二六年たつた今では市場に出ているほぼすべてのシャンプー容器にギザギザが付き、視覚障害者だけでなく、他機関からの調査、ガイドライン作成、展示会実施などの依頼が増え、それに応えるために一九九九年四月、発展的

「共に使える」は、多くの業界が業界の枠を超えて取り組むことが必要だという思いを星川は花島に相談した。二人は、以前日点を見学にきた鴨志田の事務所を訪ね、共用品を普及させるためのプロジェクト発足について説明、鴨志田にその代表就任を依頼した。鴨志田の快諾により、「楽しみながら共用品が広がる社会」の意味を込めたE&C（Enjoyment & Creation）プロジェクトが誕生した。

E&C発足当初、「共用デザイン」「共用製品」などと言われていた言葉は、会合を重ねるうちに「共用品」に定着していく。E&Cは、視覚に障害のあるメンバーに話を聞くことからスタートした。彼らが工夫しながらおこなっている身支度や料理、食事、掃除、仕事の話は、メンバーの目から鱗を落とすと同時に、「知ること」の大切さを強く実感させた。その実感は視覚障害者三〇〇名に対するアンケートに発展し、調査報告書は多くの人の目にとまつた。E&Cは彼らが感じている不便さを分類して、包装、カード、サービス、操作といった班をつくり、解決策の検討をおこなつた。たとえば当時、主流だったプリペイドカードには電話、交通、買い物カードなどがあり、それらの識別と挿入方向の確認が視覚障害者には困難だった。そこでカード班は、カードの左手前に、電話カードは半円、交通関連は三角、買い物関連は四角の切り欠きをつけることを

に解消、「共用品推進機構」という名称の財團法人として再スタートをきつた。財團になつてからは国際標準化機構（ISO）と連携して事務局を担い、共用品関連のJISを国際規格にするようになった。

規格作成時に高齢者や障害者を考慮する国際ガイドが、二〇〇一年に日本による提案で制定され、そのとき「共用品」は「アクセシブルデザイン」と英訳された。そのガイドをもとに現在JISは四〇、国際規格は二二制定されている。共用品の市場規模は二〇一五年度は二兆八四六〇億円と推計され、調査開始時の一九九五年度から五・八倍の伸びになつた。

財團の事業は、施設やイベントなどの応対マニュアルの作成や研修のほか、調査は視覚障害者に統いて、聴覚障害者、肢体不自由者、高齢者に加え、難病患者へと広げている。さらに、「よかつたこと」調査や、障害のある人が応募するアイディアコンテスト、研究所の発足などへと発展し、あとから直すのではなく、先回りして共用品が広がる仕組みづくりをおこなつている。

広辞苑に掲載された「共用品」の文字と語釈を見ながら、共用品を支え育ててくれた多くの人たちへの感謝の気持ちとともに、さらに広げたい気持ちを強く感じている。

（ほしかわ・やすゆき（公財）共用品推進機構専務理事）

*この度改訂した「広辞苑」第7版に新たに収録された約一万項目から、

言葉の来歴などについて関係者に綴っていただきます。